

四至 東南去伊州三百里 西南去西州八百里
西去庭州七百八十里 東北接賊界

80 龍部落本焉耆人今甘肅伊州各有領首其人輕銳健

鬪戰皆稟 皇化 沙州東南姚閱山去州一百八十里

西南有紫亭山去州一百九十里其山石皆紫色復名紫

亭 庭州瀚海軍 西州天山軍交河縣 伊州

伊吾軍柔遠縣

85 光啓元年十二月廿五日張大慶因靈州安尉使副大夫等來

至州於副使邊寫得此文書訖(補2)

四 本書の性質

本書の記述の體裁は先づ州の沿革と現状とを述べ、ついでその管下の各縣に及ぼして居ること第二十九行以下について見れば直ちに觀取し得られる所であつて、全く元和郡縣志の體裁と同様である。ところで殘卷の首行から第七行までの記事は、これを兩唐書の地理志・元和郡縣志・乾祐二年の沙州地志殘卷等と比較して見ると、壽昌縣に關するものであること少しも疑を容れない。この壽昌縣はこれ等の書に明記されてゐるやうに、唐の武德二年に置かれたもので、以後存廢常ならなかつたけれども、その存置された間は敦煌縣と共に沙州管下の兩縣中の一つであ